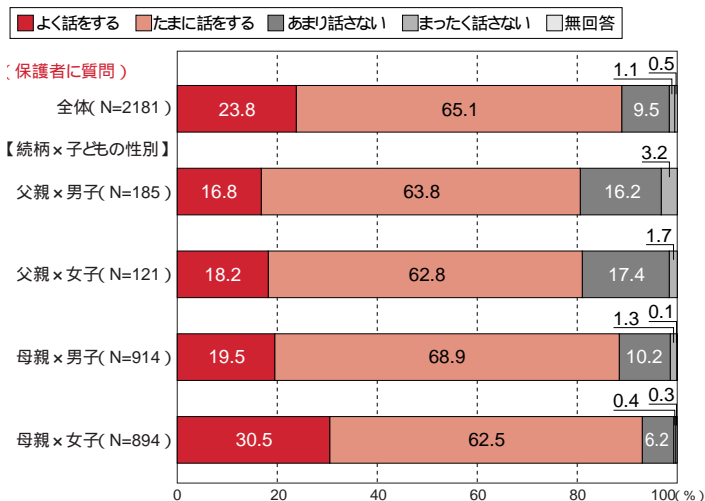


# 保護者の意識と役割

高卒後の進路や仕事について、多くの保護者は親子で話しているという。しかし子どもにアドバイスすることには自信のなさもうかがえる。

## #01 進路について親子で話す頻度

### 9割の親子が進路について話している

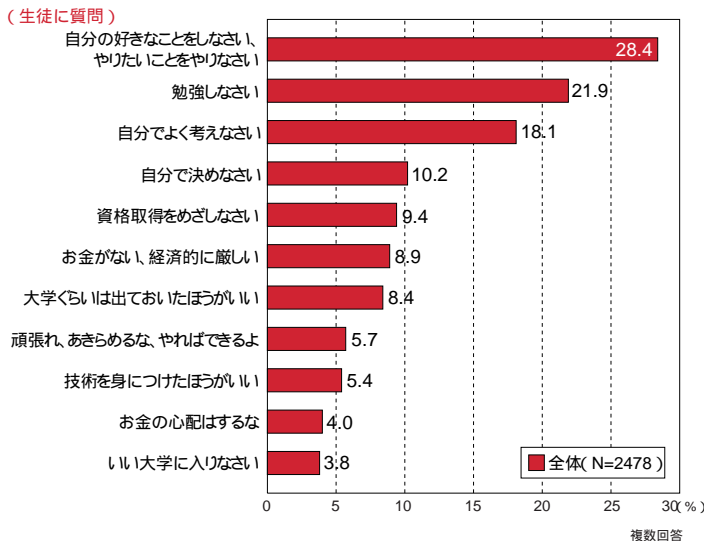


高校2年生の保護者の9割近くが、高卒後の進路について子どもと「よく・たまに話をする」という。最もよく話しているのは母親と娘の組み合わせで、最も話していないのは父親と息子だった。

全国高等学校PTA連合会・キャリアガイダンス「第2回高校生と保護者の進路に関する意識調査」2005

## #02 保護者がよく使う言葉

### 「自分の好きなことをしなさい」が最多



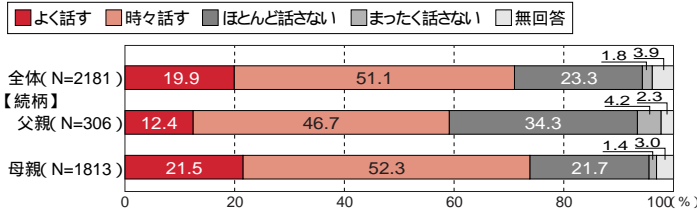
進路の話をする時、保護者が最もよく使う言葉は「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」。そう言われて「ありがたい」「頑張ろう」という気になる「ありがたい」という反応も見られた。また、2番目に多い「勉強しなさい」に対しては、「やる気がなくなる」「腹が立つ」など反感をもつ声が目立った。

全国高等学校PTA連合会・キャリアガイダンス「第2回高校生と保護者の進路に関する意識調査」2005

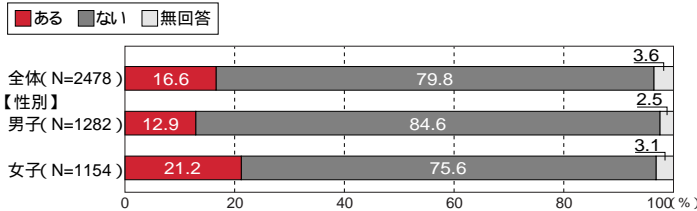
## #03 仕事に関する会話の状況

### 働く意味について深く話す親子は少数

仕事の具体的な内容、楽しさや大変さを子どもに話しているか(保護者に質問)



「なぜ働かなければいけないのか」について保護者と話し合ったことがあるか(生徒に質問)



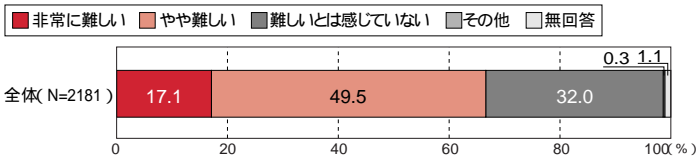
「仕事の内容や楽しさ、大変さを子どもに話している」という保護者はおよそ7割。父親は母親に比べて少なめだが、それでも過半数は仕事について話題にしている。一方、「なぜ働かなければいけないのか」について保護者と話し合ったことがあるかと高校生に聞いてみると、「ある」という回答はわずか16.6%。働く意味まで深く話し合う親子は少ないようだ。

全国高等学校PTA連合会・キャリアガイダンス「第2回高校生と保護者の進路に関する意識調査」2005

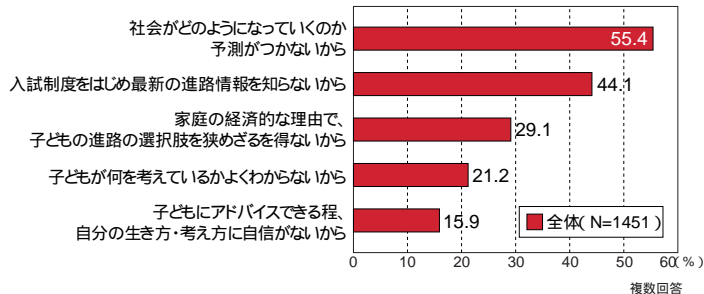
## #04 子どもへのアドバイスの困難

### 「予測できない社会」で高まる困難さ

生徒の進路選択へのアドバイスを難しいと感じるか(保護者に質問)



進路選択のアドバイスが難しいと感じる要因は何か(保護者に質問)



進路選択について子どもにアドバイスすることを、保護者の17.1%が「非常に難しい」、49.5%が「やや難しい」と感じている。その最大の要因は「社会がどのように変わっていくのか予測がつかないから」。そのほか「最新の進路情報を知らないから」「家庭の経済的な理由」をあげる人も多い。

全国高等学校PTA連合会・キャリアガイダンス「第2回高校生と保護者の進路に関する意識調査」2005